

ア. 重点的歯科口腔保健対策

（ア）歯と口の働き（口腔機能）の健全な育成

- ・よく噛んで食べることに取り組む学校園・保育所等が増加している

（イ）口腔機能の維持・向上

- ・60歳代で約4割の人は、口腔機能が低下している
- ・摂食機能療法を行う歯科医療機関は増加している

（ウ）障害者（児）、要介護者の口腔の健康の保持・増進への取組

- ・施設における歯科検診の実施率は増加している
- ・歯科訪問診療を行う歯科医療機関数は、わずかに増加している

イ. ライフステージに応じた歯科口腔保健対策

（ア）乳幼児期および学齢期

- ・定期的にフッ素塗布を受ける幼児は増えている
- ・乳歯のむし歯は減少している
- ・中学校1年生の約半数は、永久歯がむし歯になっている
- ・フッ素洗口を行う学校園は減少した

（イ）成人期および高齢期

- ・歯科検診の受診率は増加している
- ・歯の数は保たれている
- ・歯周病の人は、増加している
- ・マスク生活による口腔機能の育成や維持への悪影響が懸念される

歯科口腔保健の推進に関するイメージ図

健康市民
おかやま21
(第3次)の
ビジョン

すべての市民が健康で、心豊かに生活できる持続可能なまち

歯科保健基本
計画(第2次)の
最終目標

誰もが、生涯を通じて、食事や会話を楽しむことができる

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

適切な食生活の実現や社会生活等の質の向上

歯・口腔の健康が関わる疾病の予防・重症化予防

健康で質の高い生活のための歯科口腔保健の実現

歯・口腔に関する健康格差の縮小

1. 口腔機能の獲得、維持・向上

A. 良好な口腔領域の 成長発育

- a. 乳幼児期から学齢期
における口腔機能の
健全な育成

B. 歯科疾患の発生予防

- a. 永久歯（成人）の
むし歯予防対策
- b. 学齢期からの
歯周病予防対策

C. 歯科疾患の重症化予防

- a. 歯数の増加に伴う成人・
高齢者のむし歯対策
- b. 歯数の増加に伴う成人・
高齢者の歯周病対策

D. 口腔機能の悪化へ の対応

- a. 成人・高齢者の
口腔機能の維持・向上

歯科口腔保健の推進のための社会環境の整備

2. 歯科保健医療へのアクセスが 困難な人々への対応

- ①障害者（児）、要介護者を受け入れる歯科医療機関の増加
- ②在宅療養者への訪問診療等の充実
- ③障害者（児）入所施設、要介護者入所職員の口腔ケアの知識
と技術の向上

3. 医療・各種サービスとの連携

- ①多職種連携の推進
- ②かかりつけ歯科医機能の周知と推進

ライフステージごとの特性・ライフコースアプローチを踏まえた歯・口腔の健康づくり

< 計画期間 > 令和6年度～令和17年度：12年間

< 今後の取組案および目標項目 >

1. 口腔機能の獲得、維持・向上

- 口腔機能の健全な育成に関する情報を年数回、保育園・幼稚園・認定こども園に提供し、保護者向けの資料に掲載する。
→ 歯科保健教育を実施する学校園の増加
- リーフレットの作成、配付（むし歯予防：小学校1年生、歯周病予防：中学校2年生）
→ 12歳児の一人平均むし歯数の減少、歯ぐきに炎症所見を有する中学生の減少
- 健康教育等の機会を利用し、おとなのむし歯対策や口腔機能の維持・向上に関する知識の普及を徹底する。
→ 現在歯数の増加、口腔機能が低下していない人の増加

2. 歯科保健医療へのアクセスが困難な人々への対応

- 在宅療養者が適切な口腔ケアや歯科診療を受けられるよう、ケアマネージャーやヘルパーを対象とした研修を実施する。
→ 歯科訪問診療を行う歯科医療機関数の増加
- 施設指導等の機会を利用し、口腔ケアの質の向上に関する情報を発信する。
→ 口腔ケアに関する研修を行っている施設の増加

3. 医療・各種サービスとの連携

- がん診療連携登録歯科医の紹介
- がん治療における歯科口腔保健の重要性を啓発する。
→ 過去1年間に歯科検診を受診した者の増加